

入所・短期入所事業所連絡会 会議録概要

名 称	令和7年度 第2回 入所・短期入所事業所連絡会
日 時	令和8年2月12日(木) 9時30分～11時00分
場 所	さくらピア3階 大会議室
出 席 者	玉藻荘(岩水)、短期入所クライス豊橋(高川)、グループホームイノベル岩屋(小松)、短期入所ほのか(荻野)、豊橋ゆたか学園(鈴木)、シーサイド吉前(三上)、短期入所クライス豊橋多米西町(杉田)、グループホームイノベル下地(村木)、ケアホームふたば(北尾)、あかね荘(高橋)、すみれホーム(工藤)、ソーシャルインクルーホーム豊橋鍵田町(畠山)、メゾン・ドゥ・ラック(加藤)、豊橋ちぎり寮(宮木)、自由の杜(松坂)、ソーシャルインクルーホーム豊橋往完町(大竹)、木もれ陽(阿部)、あかね荘(佐宗)、たまも荘(鳥居・前澤)、豊橋市障害福祉課(野々村・鈴木)、とよはし総合相談支援センター(島・間木) 合計… 26名
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第5期障害者福祉計画の進捗状況について 2. 事業所見学会の報告 3. グループワーク(意見交換) <ul style="list-style-type: none"> ・他サービスを利用している方(短期入所と生活介護など)の支援における事業所間の連携や情報共有など ・短期入所における利用者の受け入れまでの流れや受け入れ方法について ・相談員との意見交換(事業所として相談員とどんな連携や協力がしていけるといいか) ・利用者の高齢化における現状について
今回の課題	<p>1 第5期障害者福祉計画の進捗状況について</p> <p style="text-align: right;">(障害福祉課 野々村氏より説明)</p> <p>市からの周知・報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約内容報告書の提出省略 ・防災危機管理課より、梅がゆ・マスクを配布 <p>2 事業所見学会の報告</p> <p style="text-align: right;">(ほっとぴあ 島氏より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続実施。今期は「ちぎり寮」「ほのか」で受け入れ。横のつながり強化と情報共有が目的。 ○ 所感(ちぎり寮・ほのか) <ul style="list-style-type: none"> ▪ 建物・運営の違いを相互学習。短時間の見学後の1時間程度の情報交換が有効。採用、生活、運営、地域自立支援の実践を議論。 ○ 見学者の学び

- 環境づくり（作品掲示・小さな飾り）による利用者反応の変化、高齢・重度化対応の介護技術、設備比較（駐車場・収納・広さ）、職員相互見学・体験の有用性。

○ 今後の継続

- 感染期・日程調整の難しさに留意しつつ継続。出欠・受け入れ可否アンケートをもとに担当者間で直接調整。

3 グループワーク（意見交換）

- ・他サービスを利用している方（短期入所と生活介護など）の支援における事業所間の連携や情報共有など
- ・短期入所における利用者の受け入れまでの流れや受け入れ方法について
- ・相談員との意見交換（事業所として相談員とどんな連携や協力がしていけるといいか）
- ・利用者の高齢化における現状について

【意見】

- ショートステイ・グループホームの利用状況と課題
 - 定員や予約運用は事業所ごとに多様。書面（メール等）での申請、即答せず全体最適に向け調整。看護師がパート中心で医療的ケアの有無により直前確定が生じやすい。
 - 緊急優先運用を重要事項で周知。単一事業所依存の利用者には併用契約を勧奨。複数施設（A/B/C）契約でバックアップ体制を持つ方針に合意。
 - 兄弟同時利用は人員配置・相性などで困難。空き状況に応じケースバイケースで対応。
 - 感染症発生時は受け入れ困難が増加。状況に応じた個別判断と多重化により継続性を確保。
- 相談支援センターの役割・連携
 - 相談員の参加・発言を依頼。事業所（B型・生活介護等）との連携、担当者会議への参加基準の整理が課題。
 - 保護者主導が多く、本人の意思・知識形成が重要。高齢保護者増加に伴い、電話中心の連絡など手段の制約へ対応。
 - 送迎のみの利用者ではドライバーが詳細把握不足。相談員への直接連絡が少なく、連絡取り次ぎ・共有方法の改善が必要。
- 事業所間の情報連携と当日情報共有
 - 他市のグループホームと生活介護等併用で情報が分断されがち。電話・担当者会議・訪問・連絡帳・書面で補完。

- 生活介護→短期入所の当日情報（発作・パニック・興奮、最終排泄、持ち物等）はアセスメント情報を最重視しつつ、家族・相談員説明との整合が必要。
- 「誰が」「どのツールで」「何をいつまでに」共有するかの標準化が望ましい。
- 緊急受入・慣らし利用・感染症対応
 - 親の急病等の突発入所は本人負担が大。事前慣らし（複数事業所ショート）を推奨。
 - 感染情報がある場合は受入見送りを検討。申込書・管理書等の事前送付で確認徹底。受入可否は段階的基準の整備が必要。
- 意思決定支援と家族合意形成
 - 本人意思が見えにくく家族意向が強まりがち。食事など小さな選択からのスモールステップで経験拡大。
 - 「本人と家族の将来」の観点で意思決定支援会議を開催し、関係者で将来像を議論する手法が有効。
 - 若年家族はSNSで主体的選択、高齢家族は選択肢認知が少ないため人間関係構築と小さな支援の積み重ねが重要。グループホームの行事・食事・楽しみ等の生活情報発信で理解・選択肢を拡大。
- 経済的課題と支援資源の活用
 - 短期入所・入所に必要費用が見える化し不安軽減。家計支援は相談員中心で対応（年金仕送り不可、外出小遣い増額等の柔軟策）。
 - 介護保険併用GHでの償還払い制度情報交換。要件・手続きの正確な確認が必要。
 - 社協・成年後見センターの重層支援窓口の活用で、障害・高齢・学童領域の旗振りを通じ包括的支援体制の構築が可能。
- 事業所の人員・受入体制
 - 人員不足、既入所者優先、感染症時の制約により受入困難が発生。人員改善で受入増を検討する意向。
 - 高齢・重度化が進行し、環境整備は進む一方、運用スキルの底上げが課題。

4 その他

- ・ 会長（北尾氏）の任期終了予定。副会長（岩水氏）が来年度会長予定。次期副会長は日中サービス等領域から候補者を打診。
- ・ 定期連絡会に限らず、顔の見える関係を生かした日常的な情報交換を推奨。